22年度公共事業予算

十分な配慮が必要

伊藤知事年頭会見

伊藤祐一郎県知事は4日、年頭の記者会見で「地域経済を守れないと県民の生活は守れない」と述べ、22年度当初の予算編成で公共事業に対する十分な配慮の必要性を強調した。また、新港区に対する国の方針決定が遅れることを説明、予算上ぎりぎりの調整を迫られていることを報告した。

調整迫られる新港区

年末に閣議決定した政府予算案について伊藤知事は「国債と税収が逆転したのは今回が初めて。厳しい状況下での予算編成になった」と指摘。また、地方交付税が昨年より1兆円増しとなったことや、臨時財政対策債を財源とするなど歳入部分を確保できる見通しを示した。

公共事業予算が前年比18・3％減となる一方、2・2兆円の社会資本整備総合交付金（仮称）創設に関して「どういう形でどう運用するのか見極める時間が必要だ」と述べ、最終的に国の判断が待たれると説明。中身がはっきりしない交付金に対しどう対応するべきか、県の予算編成上難しい状況が続くことを指摘した。

さらに「公共事業を一

国交省22年度予算案

2.2兆円の交付金創設

国土交通省の22年度予算案は、前年度当初予算比12・2％減の総額5兆5846億円（一般会計）となった。このうち、公共事業関係費は前年度当初予算額に比べ15・2％減の4兆8585億円と過去最大の下げ幅まで削り込んだ。

また、地域主権の確立に向けて社会資本整備関係の補助金を「社会資本整備総合交付金（仮称）」に集約した。一方で、港湾・空港の国際競争力強化や観光立国の推進には予算を重点配分するなど、鳩山政権の基本姿勢を色濃く反映させた内容となった。

政権交代後初めての編成となった22年度予算案は、▽公共事業関係費の大幅な削減▽地域主権の確立に向けた予算制度の抜本的な見直し－などを柱に、前政権までの既存予算を抜本的に見直した点が最大の特徴。高速道路無料化の社会実験費用を圧縮したことや、事業仕分けを経た予算査定によって予算の計上見送りや縮減が相次いだことで、一般会計総額は前年度に比べ7726億6800万円の減となった。

21年10月の概算要求時点と比べても約6000億円の減と大幅にマイナスした。公共事業関係費は、道路整備の事業個所数を2割以上削減したり、ダム事業の再検証で事業個所を絞り込むことなどによって、前年度に比べ8739億円の減額とした。

予算制度の抜本的な見直しに当たって、総額2兆2000億円の「社会資本整備総合交付金（仮称）」の創設を盛り込んだ。この交付金は道路、治水、海岸、まちづくり、下水道、住宅、港湾といった分野の国庫補助金を原則廃止した上で、▽活力創出基盤▽水の安全・安心基盤確保▽市街地整備▽地域住宅支援－の4分野について、地方自治体が国費を自由に充当できる仕組みを想定している。

また、直轄事業負担金のうち維持管理埋負担金を22年度から廃止するとともに、退職手当てや営繕宿舎費といった業務取扱費の地方負担も全廃する。ただし、経過措置として維持管理のうち特定事業に要する経費は22年度に限り徴収する考えだ。

出水共同高等職業訓練校

刈払機作業など3講

出水共同高等職業訓練校（校長・渋谷拔彦出水市長）は、刈払機作業従事者安全衛生教育講習会など3部門の講習会を実施する。

申し込み等についての問い合わせは、同校（出水市野田町下名5279☎0996・84・2451）担当・樋口氏まで。

詳細は次の通り（▽講習会名＝①実施日②定員③受講料④申込締切）

▽刈払機作業従事者安全衛生教育講習会＝①11月30日②50人③8000円④1月25日

▽チェーンソー作業従事者特別教育講習会＝①2月27日、28日の2日間②50人③1万2000円④2月19日

▽小型移動式クレーン運転技能講習会＝①4月17日、18日の2日間と4月24日、25日のどちらか1日の計3日間②

カイゼン入門（鹿児島教室）

来月10日まで受付け

中小企業大学校人吉校

独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部・中小企業大学校人吉校は2月17日午前9時20分から、鹿児島市のアーバンポートホテル鹿児島ピコットホールで「カイゼン入門」と題した研修会を開く。定員30人、受講料は1万5000円。申し込みは2月10日まで。

企業の体質を強化するためにはカイゼン活動が必要不可欠。考え方・進め方について講義する。講師は、ステップスマネジメントコンサルタント事務所代表の橋爪準一氏。

問い合わせは、同校人材支援課（☎0966・23・6806 FAX22・1456）まで。詳細は、ホームページ（http://www.suri.go.jp/inst/hitoyoshi/）に掲載。

木陰

上野　徹

人生五十数年、これまで多くの趣味に出会ってきた。道具もその都度買いそろえて準備するが、物事に対してあまり執着することができない性格のためか、その多くが長続きしない。

その中で唯一、今も継続している趣味が「ソフトボール」である。「何？その年齢で」と疑問視され、「キャッチボール程度なら俺もできるよ」と言われる方が多いと思う。

皆さんあまりご存知ないかもしれないが、立派な公式試合である。全国組織でそれぞれの年齢で区分した大会が行われており、地方予選から九州、西日本、全国大会と年3回以上開催されている。

私の所属している県庁実年ソフトボールチームは50才以上が参加資格で、現在25人の部員で構成されている。設立当時は県内でも強豪チームとして知られ、岐阜の下呂温泉や栃木の日光温泉での全国大会に出場したこともある。

近年は、チームの平均年齢が高くなり、なかなか県予選を突破できていない。とはいえ、練習はプロ野球並みで、2月にキャンプインし、10月まで毎週土曜日欠かさず午前中の3時間汗を流している。

野球小僧

練習はきついが、公式試合は緊張感があって非常に楽しい。どのチームも似たような年齢でユニホーム姿はりりしいが、ひとたび帽子が飛べば現実の姿に戻ってしまう。

ある試合での出来事。ヒットで出塁して二塁へ滑り込んでセーフとなったとき、相手チームの選手・塁審がすぐ駆け寄ってきた。「だいじょうな？」。試合そっちのけで抱き起こしてくれるのである。

ただ、ヒットを打ったときの快感、ファインプレー？（自画自賛）の爽快感は忘れられず、心配する妻をよそ目に頑張っている。

今もソフトボールにかける情熱だけは消えていないが、最近、公式試合後の「飲ん方」や練習後の「昼食会（主にラーメン）」が楽しみになっていることが少々気がかりである。

今後も健康増進・メタボ対策として、体力の続く限り、現役で「野球小僧」として頑張っていきたい。

（県鹿児島地域振興局建設部日置支所長）

謹んでおくやみ申し上げます

立神利貢さん死去

最期の別れ惜しむ

立神利貢氏　鹿屋市の㈱立神植物園代表取締役社長が1月3日、急性脳内出血のため急逝した。54歳。5日午前11時から鹿屋市旭原町の上村斎場「バイパス青山斎場」で告別式が執り行われ、多くの弔問客が最期の別れを惜しんだ。

同氏は、鹿屋緑化建設業協会長（任期中）を務めたほか、協会の地域貢献活動への積極参加など、長年にわたり業界の発展に尽力してきた。

無料体験実施中
建設業の詳しい情報は…
http://www.kc-news.co.jp
業者格付・県・市町村予算・発注予定工事等々情報は盛りだくさん！
お問い合わせ：099-222-6123